



**THIS PAGE BLANK (USPTO)**

# BEST AVAILABLE COPY

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号  
特開2000-285041  
(P2000-285041A)

(43) 公開日 平成12年10月13日 (2000. 10. 13)

(51) Int.Cl. <sup>7</sup>	識別記号	F I	テコード (参考)
G 0 6 F 13/00	3 5 1	G 0 6 F 13/00	3 5 1 G 5 B 0 8 9
H 0 4 L 12/54		H 0 4 L 11/20	1 0 1 B 5 K 0 3 0
12/58			

審査請求 有 請求項の数 3 O L (全 6 頁)

(21) 出願番号 特願平11-87191

(22) 出願日 平成11年3月29日 (1999. 3. 29)

(71) 出願人 000004237

日本電気株式会社

東京都港区芝五丁目7番1号

(72) 発明者 又吉 克

東京都港区芝五丁目7番1号 日本電気株式会社内

(74) 代理人 100108578

弁理士 高橋 昭男 (外3名)

Fターム (参考) 5B089 GB03 JA31 KA03 KA05 KC11

KC44 KC53 LA06 LB14

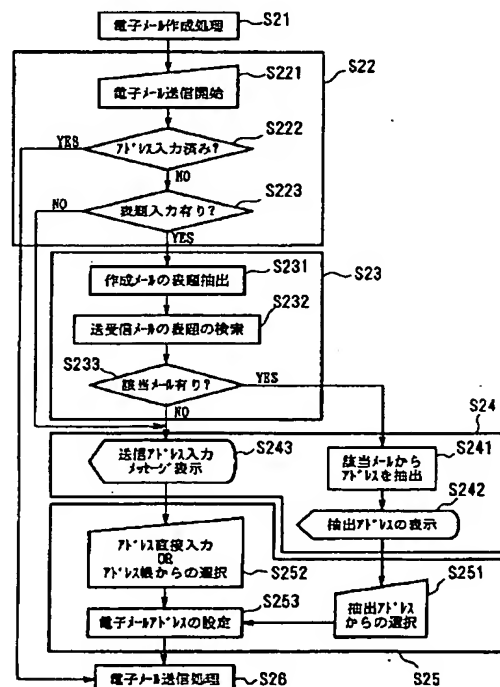
5K030 GA17 HA06 LD17

(54) 【発明の名称】 電子メールのアドレス生成方法

(57) 【要約】

【課題】 電子メールの送信先候補の抽出を簡易化した電子メールのアドレス生成方法を提供する。

【解決手段】 操作者は送信する電子メールを入力装置1から作成する (ステップS21)。CPU2は、まず、作成された電子メールの表題を抽出し (ステップS231)、次いで、抽出した表題をもとに、記憶装置3に記憶されていた過去に送受信された送受信メールの表題を検索条件に基づいて検索する (ステップS233)。次に、CPU2は、検索条件に該当する電子メールから送信先電子メールアドレスを抽出し (ステップS241)、その抽出した送信先電子メールアドレスを電子メールの送信先候補として表示装置4に表示する (ステップS242)。操作者は、表示装置4に表示された送信先候補の中から送信先を選択する (ステップS251)。CPU2は、電子メールの送信先欄に選択されたアドレスを設定する (ステップS253)。送信先アドレスが設定されたことを受け、ネットワーク通信装置により、電子メールが送信される (ステップS26)。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 電子メールに入力された表題をもとに、検索条件に基づいて過去に送受信した送受信メールの表題を検索し、該当した送受信メールの電子メールアドレスを前記電子メールの送信先候補として抽出し、抽出した前記電子メールアドレスの中から選択された送信先アドレスを送信先に設定することを特徴とする電子メールのアドレス生成方法。

【請求項2】 過去に送受信した前記送受信メールを検索条件に基づいて検索した結果、該当する送受信メールが検索されなかった場合、操作者に対し送信先電子メールアドレスの入力を指示することを特徴とする請求項1記載の電子メールのアドレス生成方法。

【請求項3】 前記検索条件は、入力された表題と、前記送受信メールの表題とが部分的に一致するか、完全に一致するかに関する条件であることを特徴とする請求項1記載の電子メールのアドレス生成方法。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、電子メールの送信先候補の抽出を簡易化した電子メールのアドレス生成方法に関するものである。

## 【0002】

【従来の技術】電子メールを送信する場合、操作者は送信先を特定するため電子メールアドレス(メールアドレス、ネットワークIDと呼ばれることもある)を指定する必要がある。一般の電子メールを送受信するソフトウェアには、アドレス帳と呼ばれる電子メールアドレスを管理する機能がある。操作者は、そのアドレス帳に、よく利用する電子メールアドレスを登録し、電子メールを送信する際に、アドレス帳から送信先を選択することで送信先を指定できる。

【0003】アドレス帳に登録された電子メールアドレスは、名称順やその所属順などで管理される。しかし、登録された電子メールアドレスが増えると、操作者は、送信先を選択する操作に手間がかかることになる。また、操作者が複数箇所に対し電子メールを送信したい場合に、送信先の電子メールアドレスがアドレス帳に連続的に表示されることはまれである。

【0004】そのため、操作者は個々の送信先をアドレス帳から検索し、選択する作業が必要となり、大変手間がかかるという問題点がある。これらの問題点に対して、送信先電子メールアドレスを設定する時に、キーワードを用いて自動的に送信先電子メールアドレスを検索する電子メールアドレスの生成方法が特開平10-11374号公報に記載されている。

【0005】この電子メールアドレスの生成方法が用いられる端末装置は、電子メール送信時に、送信先電子メールアドレス検索用のキーワードを入力する入力手段と、過去に受信した受信メールから、上述した入力手段

によって入力されたキーワードを検索する検索手段と、この検索手段で検索された該当電子メールのアドレスを送信先候補として抽出する抽出手段と、抽出手段で抽出された送信先候補の中から操作者が送信先を選択する選択手段と、操作者によって選択された電子メールアドレスに対し電子メールを送信する送信手段から構成されている。

【0006】このような構成を有する従来の端末装置は次のように動作する。図4において、電子メール送信時に、操作者は電子メールの内容に当てはまる検索用キーワードを入力する(ステップS41)。電子メール用端末は、入力されたキーワードを用いて過去に受信した受信メールを検索し(ステップS42)、過去に受信した受信メールの中からそのキーワードを有する電子メールを抽出し、その電子メールの送信先電子メールアドレスを電子メールの送信先候補として提示する(ステップS43)。

【0007】操作者は、その電子メールの送信先候補として提示された電子メールアドレスの中から、送信先を選択する(ステップS44)。電子メール用端末は、操作者によって選択された送信先に、電子メールを送信する(ステップS45)。

## 【0008】

【発明が解決しようとする課題】しかし、このような従来技術では、電子メールの送信先電子メールアドレスを生成するのに、操作者が入力装置からキーワードを入力しなければならないという欠点がある。また、受信メールの内容を検索し、キーワードに該当する受信メールを抽出するため、受信メールが増加すると、検索数も増加し、検索するのに時間がかかるようになる。このような結果、受信メールの増加に伴い、電子メールの送信先電子メールアドレスを抽出する時間も増大するという問題点がある。

【0009】本発明はこのような事情に鑑みてなされたもので、キーワードを入力する負担を排除するとともに、送信先電子メールアドレスを抽出する時間も削減することのできる電子メールアドレスの生成方法を提供することを目的とする。

## 【0010】

【課題を解決するための手段】上記目的を達成するために、請求項1に記載の発明は、電子メールに入力された表題をもとに、検索条件に基づいて過去に送受信した送受信メールの表題を検索し、該当した送受信メールの電子メールアドレスを前記電子メールの送信先候補として抽出し、抽出した前記電子メールアドレスの中から選択された送信先アドレスを送信先に設定することを特徴とする。

【0011】また、請求項2に記載の発明は、請求項1に記載の電子メールのアドレス生成方法において、過去に送受信した前記送受信メールを検索条件に基づいて検

3

索した結果、該当する送受信メールが検索されなかった場合、操作者に対し送信先電子メールアドレスの入力を指示することを特徴とする。

【0012】また、請求項3に記載の発明は、請求項1に記載の電子メールのアドレス生成方法において、前記検索条件は、入力された表題と、前記送受信メールの表題とが部分的に一致するか、完全に一致するかに関する条件であることを特徴とする。

【0013】

【発明の実施の形態】以下、図面を参照し本発明の一実施形態について説明する。図1はこの発明の一実施形態の構成を示すブロック図である。この図において、1は入力装置であり、操作者が電子メール作成等の入力を行う。2はCPU（中央処理装置）であり、電子メール作成処理S21と、表題解析処理S22と、送受信メール検索処理S23と、送信アドレス提示処理S24と、送信アドレス設定処理S25と、電子メール送信処理S26とを行う。このCPUが行う処理の詳細は後に説明する。3は記憶装置であり送受信済み電子メールを記憶する。4は表示装置であり、5は電子メールを送受信するネットワーク通信装置である。

【0014】次に、上記実施形態の動作を図2を参照して説明する。図2において、操作者は送信する電子メールを入力装置1によって作成する電子メール作成処理を行う（ステップS21）。次に、表題解析処理が行われる（ステップS22）。表題解析処理では、まず、操作者が電子メール送信開始の指示を入力装置1から入力する（ステップS221）。

【0015】この入力が行われるとCPU2は、作成された電子メールに送信先電子メールアドレスが入力されているか否かを判断する（ステップS222）。そして、送信先電子メールアドレスが入力されていないと判断された場合、CPU2は、作成された電子メールに表題が入力されているか否かを判断する（ステップS223）。

【0016】ステップS223において、作成された電子メールに表題が入力されていると判断された場合、次の送受信メール検索処理（ステップS23）が行われる。送受信メール検索処理では、まず、作成された電子メールの表題が抽出される（ステップS231）。次に、ステップS231で抽出された表題をもとに、記憶装置3に記憶されていた送受信メールの表題を検索し（ステップS232）、該当する表題の有無が判断される（ステップS233）。

【0017】次に、送信アドレス提示処理（ステップS24）が行われる。この送信アドレス提示処理では、前述したステップS232の検索結果で該当する電子メールが検出された場合、該当する電子メールから送信先電子メールアドレスが抽出される（ステップS241）。そして、抽出された送信先電子メールアドレスが表示装

4

置4に表示される（ステップS242）。

【0018】次に、送信アドレス設定処理（ステップS25）が行われる。送信アドレス設定処理では、まず操作者は、表示装置4に表示された送信先電子メールアドレスの中から送信先を選択する操作を入力装置1から行う（ステップS251）。そして、操作者によって選択された送信先電子メールアドレスは、作成された電子メールの送信先として設定される（ステップS253）。

【0019】最後に、送信先電子メールアドレスが設定されたことを受け、設定された送信先アドレスに電子メールを送信する電子メール送信処理が行われる（ステップS26）。なお、ステップS222で作成した電子メールの送信先に、送信先電子メールアドレスが入力されていると判断された場合は、そのまま電子メール送信処理（ステップS26）が行われる。

【0020】また、作成した電子メールに表題が入力されているか否かを判断するステップS223で、作成した電子メールに表題が入力されていない場合、及び、送受信メール検索処理（ステップS23）において、該当する送受信メールが検索されなかった場合は、操作者に送信先電子メールアドレス入力を促すメッセージを表示装置4に表示する（ステップS243）。

【0021】操作者はこの指示通り、入力装置1から直接、送信先電子メールアドレスを入力するか、または電子メールを送受信するソフトウェアが有するアドレス帳機能から送信先電子メールアドレスを選択する（ステップS252）。そして、入力または選択された送信先電子メールアドレスは、作成された電子メールの送信先アドレス欄に送信先として設定される（ステップS253）。

【0022】次に、具体例を用いて本実施形態の動作を説明する。図3は、電子メールのアドレス生成過程の具体例を示す説明図である。図3に示すように、一般的な電子メールの形式は、送信先を示す「To:」と同報送信先を示す「Cc:」、表題を示す「Subject:」、および「本文」からなる。ここでは表題が「Weekly Report」として電子メールが作成されたものとする（ステップS31）。操作者により電子メールが作成され、送信先アドレスの入力がないまま電子メール送信開始の操作が入力装置1から入力されると、表題「Weekly Report」が抽出される（ステップS32）。

【0023】次に抽出された「Weekly Report」をもとに、過去に送受信された送受信メールの表題が検索される（ステップS33）。図示の例において、「送受信メール1」の表題は「Weekly Report (YY/MM/DD)」であるため、作成された電子メールの表題「Weekly Report」を含む。そのため、「送受信メール1」は検索に該当する電子メールと判断され、「送受信メール1」の送信先電

5

子メールアドレスが抽出される。

【0024】他の「送受信メール2」と「送受信メール3」の表題は、「monthlyReport」と「Hello」であるため、検索に該当しないと判断される。その結果、「送受信メール1」の送信先電子メールアドレスが電子メール送信先候補として表示される（ステップS34）。次に操作者は表示されたアドレスの中から電子メール送信先を選択する（ステップS35）。ここでは、操作者は「address1@ccc.dd.eee」を選択したものとする。その結果、操作者の作成した電子メールの送信先にアドレス「address1@ccc.dd.eee」が設定される（ステップS36）。

【0025】ここでは、「送受信メール1」が該当する電子メールとされたが、検索の条件を変更することで、他の結果を得ることができる。検索の条件として、「送受信メールの表題に操作者が作成した表題が含まれる」とした場合、ここで説明した「送受信メール1」が該当する電子メールとなる。検索の条件を「送受信メールの表題が、操作者が作成した表題と完全に一致する」とした場合、「送受信メール1」、「送受信メール2」および「送受信メール3」には該当する電子メールが存在しないことになる。

【0026】また、検索条件を「送受信メールの表題が、操作者が作成した表題と部分的に一致する」とした場合、操作者が作成した電子メールの表題「Weekly Report」と、「送受信メール2」の表題「monthly Report」は、「Report」の部分が一致する。従って、「送受信メール1」と「送受

6

信メール2」の2つが該当する電子メールとなり、それぞれの送受信メールの送信先電子メールアドレスが電子メール送信先候補として、抽出、表示されることになる。

【0027】

【発明の効果】以上説明したように、本発明による電子メールのアドレス生成方法によれば、操作者が作成した電子メールの表題をもとに、過去に送受信した送受信メールの表題を検索し、検索条件に該当する電子メールの送信先電子メールアドレスを電子メールの送信先候補として抽出する。これにより、送信先電子メールアドレスを設定するのに、アドレス帳機能から、送信先を選択する作業を行ったり、また、キーワードを入力するなどの電子メール作成処理とは直接関係のない処理を行うことなく、極めて短時間でアドレスを設定することができる利点が得られる。

【図面の簡単な説明】

【図1】この発明の一実施形態の構成を示すブロック図である。

【図2】同実施形態の動作を説明するためのフローチャートである。

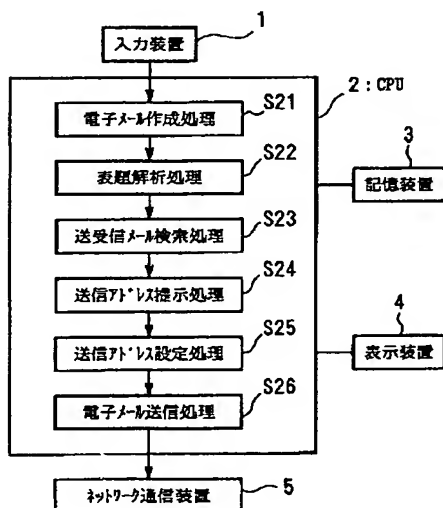
【図3】同実施形態の動作の具体例を説明するための説明図である。

【図4】従来の電子メールのアドレス生成方法を説明するためのフローチャートである。

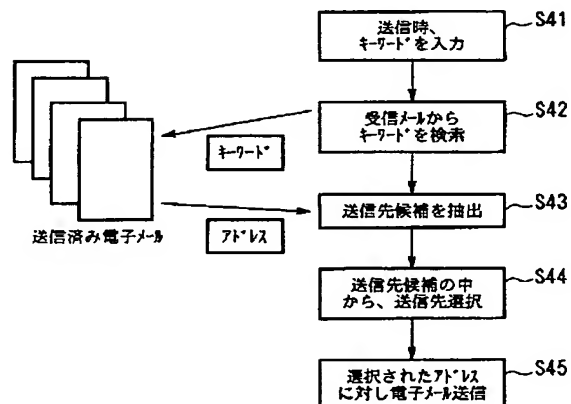
【符号の説明】

1…入力装置、2…CPU、3…記憶装置、4…表示装置、5…ネットワーク通信装置。

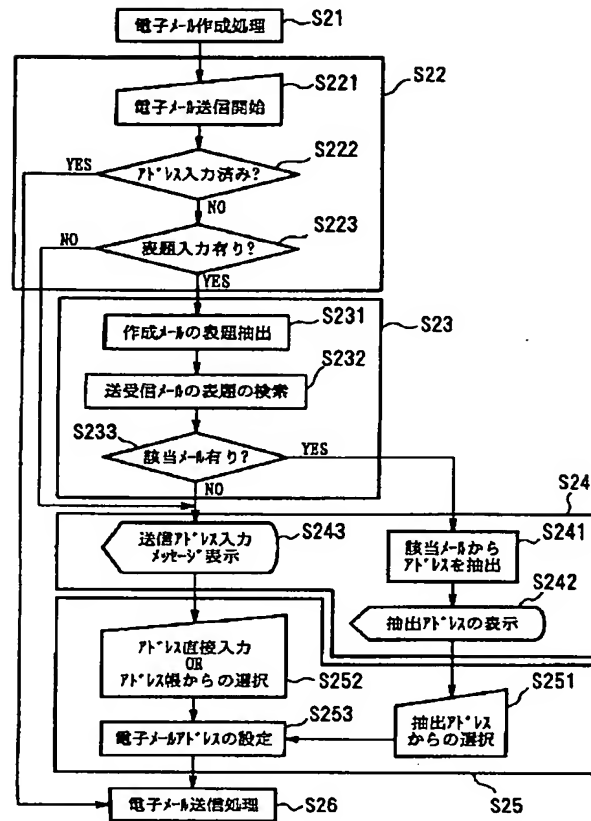
【図1】



【図4】



【図2】



【図3】

